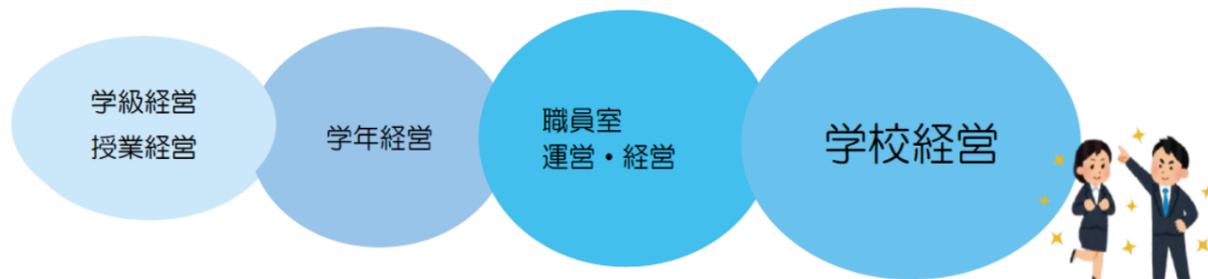


直接子供を育てる立場から、教職員と共に子供の変化や成長を見守る立場へ



マネジメント能力は、ご自身の経験の中で培われてきています！  
 新たなマネジメントへ挑戦し、自己の可能性、学校・子供たちの可能性を広げてみませんか。  
 これまでにない未来を共に作っていきましょう。

## 主任教諭選考からチャレンジしてみましょう！

### 主任教諭選考

【主任教諭】校務分掌などにおける学校運営上の重要な役割

⇒校務分掌などにおける学校運営上の重要な役割、指導・監督層である主幹教諭の補佐、同僚や若手教員への助言・支援などの役割を担います。

### 4 級職選考

【主幹教諭】学校運営組織における中心的な役割

⇒校長・副校長の補佐機能、調整機能、人材育成機能及び監督機能を果たすとともに、経営層である校長・副校長と実践層である主任教諭等との間で調整的な役割を担います。

【指導教諭】学習指導のスペシャリストとして教員の授業力向上に寄与する重要な役割

⇒高い専門性と優れた教科指導力をもつ教員で、模範授業の実践や、教科等の指導技術を自校・他校の教員に普及させる役割を担います。

御質問などがある場合は、各学校の管理職にお問い合わせください。

このリーフレットは  
 こちらからも御覧いただけます。



発行元：東京都教育庁人事部職員課  
 東京都教育委員会印刷物登録令和7年度第11号



## 育てるのは、東京の未来だ

～自分のキャリアと向き合い、これまでの強みを生かし、次へ挑む～

「教育職員の任用制度」を参考にして、あなたの今後の教員生活におけるキャリアアップについて考えてみましょう。

### 教育職員の任用制度

職務の級	職	年度末年齢 (最速)	
6級	統括校長	45歳	
	校長	43歳	<b>統括校長選定</b> (最速44歳) ○校長級職歴、原則2年以上
5級	副校長	39歳	<b>校長任用審査</b> (最速42歳) ○校長選考合格者 ○管理職(副校長、統括指導主事等)経験年数4年以上
			<b>校長選考</b> (最速41歳) ○東京都教育管理職(副校長、統括指導主事等)経験年数3年以上 ○年齢59歳未満
4級	主幹教諭 指導教諭	33歳	<b>副校長任用審査</b> ○教育管理職選考合格者 ○A選考合格後、原則5年以上(最速38歳) (主任教諭で合格の場合は6年以上) ○B選考合格後、原則2年以上(最速41歳) (主任教諭で合格の場合は3年以上) ※ C選考の合格者については、教育管理職選考の判定結果をもって任用審査会における適格の判定を受けたものとみなす。
			<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>教育管理職A選考</b>                      ○現に主幹教諭・指導教諭である者又は主任教諭歴が2年以上ある者                      ○44歳未満                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>教育管理職C選考</b>                      ○主幹教諭又は指導教諭歴が3年以上ある者                      ○50歳以上60歳未満                 </div> </div>
3級	主任教諭	31歳	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>4級職選考</b>                      ○現に主任教諭の職にあり主任教諭歴2年以上                      ○年齢34歳以上60歳未満(*)                      (* ) 定年引上げに伴い、上限年齢は2年に1歳ずつ引き上げ(R7・8は60歳、R9・10は61歳、R11・12は62歳、R13以降は63歳)                 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> <b>教育管理職B選考</b>                      次の(ア)又は(イ)に該当する者                      (ア)                      ○現に主幹教諭・指導教諭である者                      ○39歳以上54歳未満                      (イ)(通称B'選考)                      ○主任教諭歴が2年以上ある者                      ○46歳以上54歳未満                 </div> </div>
			<b>主任教諭選考</b> (最速30歳) ○国公立学校の正規任用教員又は臨時的任用教員としての教職経験年数が通算して8年以上(ただし都教職経験(臨時的任用は含まない。))が継続して2年以上 ○年齢30歳以上62歳未満(*) (* ) 定年引上げに伴い、上限年齢は2年に1歳ずつ引き上げ(R7・8は62歳、R9・10は63歳、R11・12は64歳、R13以降は65歳)
2級	教諭	23歳	

# 今後の教員生活におけるキャリアアップについて考えてみましょう！

未来の東京都の教育を支える教育管理職に昇任するための選考には、「A選考」、「B選考」、「C選考」の3種類があります。

## 自己申告書における『将来果たすべき自己の役割』

自己申告書のキャリアプランの欄について、「将来果たすべき自己の役割」を考えてみましょう。右と下のグラフは、令和5年度教育管理職候補者二次選考等受験者に行ったアンケートの結果です。右のグラフは、教育管理職としての魅力の上位5項目となります。

受験者が、将来果たすべき自己の役割としてどのようなことを考えていたのか、実際にどのような時期に選考を意識し始めたのかを参考に、自己申告面談で自身の今後のキャリアについて、校長や副校長等と積極的に意見交換を行いましょう。

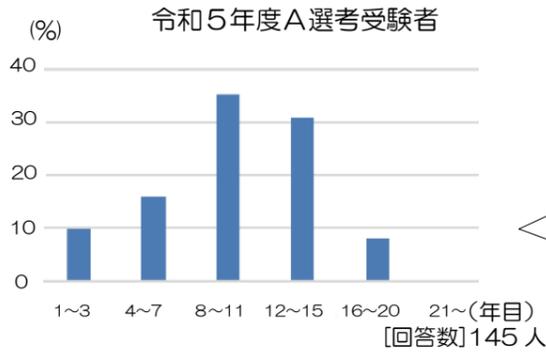
- 学校経営
- 教育行政
- 学校運営のリーダー
- 教育指導のリーダー



自身の今後の姿をイメージしてみましょう。これまでの経験を、どのような分野で発揮していきますか。  
左のQRコードの内容は、「東京都立学校の校長・副校長及び教員としての資質の向上に関する指標」となっています。それぞれの職層で求められる役割や能力等が掲載されています。



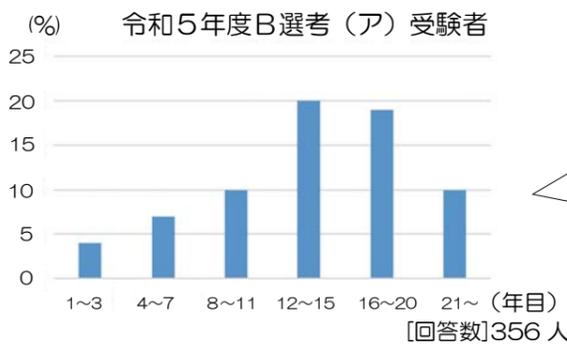
管理職になることを意識したのはいつ頃からですか。



「A選考」  
・原則指導主事に任用されます。  
・主幹教諭からの受験は、原則5年目に任用審査、主任教諭からの受験は、原則6年目に任用審査となります。

●A選考受験者の60.8%が、教員経験11年目までに意識をしています。

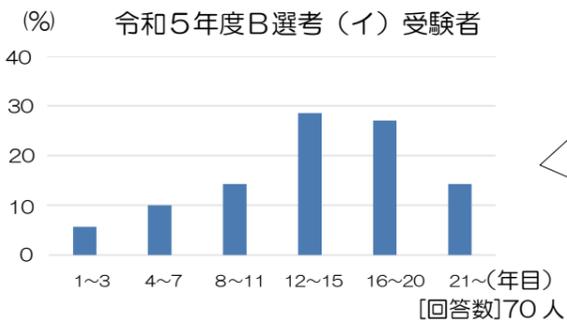
→A選考は最短で32歳、10年目の経験で受験可能。原則指導主事の任用となるため、早期から管理職になる意識が根付いています。



「B選考(ア)」  
・主幹教諭からの選考、原則2年目に任用審査となります。

●69.7%が、教員経験12~20年目までに意識をしています。

→4級職への意識は、最短で35歳。指導監督層として学校運営に携わることで、管理職を意識しています。

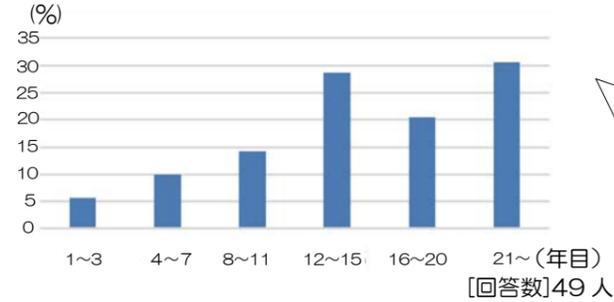


「B選考(イ)」  
・主任教諭からの選考、原則3年目に任用審査となります。

●85.7%が、教員経験20年目までに意識をしています。

→B選考(ア)の受験者と比べると、1年目から11年目までの間で管理職への意識が高いことが分かります。受験するまでの悩みとして、「ライフ・ワーク・バランス(18%)」「家庭の事情(16%)」が上位にあったことから、その悩みが軽減されたタイミングで受験している教員がいることが分かります。

## 令和5年度C選考受験者



「C選考」  
・合格後、翌年度副校長昇任となります。

●C選考受験者は、12~15年目と、21年目以上で意識が分かれます。

→回答した人の受験への悩みには、家庭事情と共に学校経営への悩み(学校を経営すること、教育者としての見識等)があることから、12~15年目で管理職になることについて考え、21年目以上で選考を受験していることが分かります。

教育管理職選考受験の悩みを調査したところ、最も多い回答が「ライフ・ワーク・バランス」でした。

教育管理職選考を受験するまでに、管理職になる覚悟と共に不安を抱えている方がいます。

東京都では、副校長に着任した際の支援や、現在管理職として活躍している副校長から管理職の魅力を発信する取組を行っています。

## 【副校長への支援】

★学校マネジメント強化事業(副校長マネジメント支援員の配置)

【調査対応や資料準備補助等の業務をサポート】

副校長の業務負担軽減のため、副校長を直接補佐する支援員を配置します。

★アウトリーチ型フォローアッププログラム

【全教職員に面談を実施し、教職員のメンタルケアをサポート】

教職員が安心して働けるよう、臨床心理士等が学校を訪問します。



★教育管理職ロールモデル集【インタビュー動画を配信中】

現在副校長として活躍している方々が、管理職選考受験をしたきっかけや、管理職としてのやりがいを発信しています。



◎教育管理職ロールモデル集より抜粋

【選考を受験したきっかけ】

- ・若手教員の育成や学校運営に中心となって関わることが増え、広い視野をもって多くの方の力になれる存在になりたいと感じるようになった。当時の管理職や母親の言葉に背中を押され、子育てが一段落したタイミングで受験しました。
- ・学年主任や主幹教諭として企画調整会議に参加するようになってから、教育に携わる教職員が良い関係をつくれるよう、管理職として学校経営に携わっていきたいという気持ちが強くなったため受験しました。

【これから受験を考える方々へのメッセージ】

- ・管理職選考の受験を勧められた時には、私には向いていないのでできないと断っていました。管理職になっても、自分が管理職に向いているのかよく分からないし、考えても答えは出ないのだと思っていました。求められる役割を果たせるよう、一つ一つのことに真摯に向き合うことを大切にしており、その中で、少しずつこの仕事のおもしろさを感じるようになってきました。自分が悩んでいた頃に、様々なタイプのロールモデルを知ることができたらよかったと思います。
- ・学級経営や分掌の業務等、何か自身の中で達成感を味わえることがあれば、それが教育管理職選考受験の良いきっかけだと考えています。うまく業務が進められた、調整ができた等の実感が得られた際には、近くの先輩や管理職の先生方に相談してほしいです。